茨城工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	人間と世界Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0097	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位II: 2
開設学科	電子情報工学科(2016年度以前入学生)	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1
教科書/教材	適宜プリントを配布する。		
担当教員	田村 歩		

到達目標

著名な哲学者たちが提示してきた諸見解に実際に触れることで、哲学史上の基本的な事項を抑えると同時に、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	哲学史上の様々な論点について正しく理解し、自分なりの見解をもつことができる。	哲学史上の様々な論点について正しく理解し、説明することができる。	哲学史上の様々な論点について正しく理解することができない。
評価項目２	一つの事がらについて、自力で、複数の観点から検討することができる。	一つの事がらについて、自らの見解と他者の見解を比較・検討することができる。	一つの事がらについて、固定された見解しかもちえない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (E)(ト)

教育方法等

概要	長い哲学史において議論されてきた様々な問題を検討することで、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。具体的には、古代ギリシャから近現代に至る西洋哲学を素材とし、哲学者たちの緻密で重層的な議論を辿っていく。
授業の進め方・方法	本授業は、基本的には講義形式で行われる。受講の際には、言及される事がらについての一問一答的な暗記に終始するのではなく、一つの哲学的な見解が提示されるに至るまでの過程を重視してもらいたい。
注意点	既存の知識や常識、他者の見解に無批判に追従しないこと。自分の見解に固執して他者の見解を根拠なく排斥しないこと。 なお、本年度の本科目の内容は、基本的に「人間と世界Ⅰ」と同等である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンスと導入	
		2週	哲学とは何か？	右の問題について理解し、議論を辿る。
		3週	〈万物の根源〉の探究と古代ギリシャ哲学	同上。
		4週	〈思考の限界への挑戦〉としての古代ギリシャ哲学――パラドックス／原子論	同上。
		5週	〈実践〉としての古代ギリシャ哲学――ソクラテス	同上。
		6週	確実な認識と形而上学――プラトン	同上。
		7週	１～６週までの復習	
		8週	存在論――アリストテレス	同上
	2ndQ	9週	倫理学の発展	同上。
		10週	哲学とキリスト教	同上。
		11週	自由意志と決定論	同上。
		12週	中世から近世へ	同上。
		13週	８～１２週までの復習	
		14週	全範囲の総括	
		15週	期末試験は行わない	
		16週	成績評価課題の返却と解説	
後期	3rdQ	1週	近代科学の誕生	科学と哲学とはどのような関係にあるか？
		2週	理性主義哲学――デカルトａ	〈私〉とは何か？
		3週	理性主義哲学――デカルトｂ	世界とはどのように存在しているのか？
		4週	経験主義哲学――ロック	物体とはどのように存在しているのか？
		5週	経験主義哲学――バークリー	世界とは〈私〉の意識の産物にすぎないのではないか？
		6週	経験主義哲学――ヒューム	因果関係とは単なる前後関係にすぎないのではないか？
		7週	（中間試験）	
		8週	答案の返却および解説	
	4thQ	9週	理性主義と経験主義との合流――カント	世界は三次元なのか？それとも単に人間には三次元にしか見えないだけなのか？
		10週	道徳哲学――カント	殺人鬼から友人を庇うためにウソをつくことは悪である！？
		11週	倫理学ａ	多数を救うために少数を犠牲にすることは許されるか？
		12週	倫理学ｂ	生存のための殺人は許されるか？
		13週	倫理学ｃ	検討中。
		14週	予備日あるいは総括	
		15週	（期末試験）	

		16週	答案の返却と解説	

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力（前期）	0	50	0	0	0	0	50
基礎的能力（後期）	50	0	0	0	0	0	50